

地域一丸となった学校林づくり



学校林の中心となる大木を引抜く



作業に集まる切原地区の児童たち



炭焼きに挑戦

地域一丸となって

きっかけは平成14年の「切原小学校で裏山を学校林として整備」という新聞記事でした。

偶然この記事を目にした地元、中小田切区長さんが、共に「切原小学校学校林整備委員会」の委員を務める切原地区区長会長さん達と学校に協力を申し出たことから地域一丸となった学校林づくりがスタートしました。

山を大切にすることを

この申し出の商榷には、最近、地域の山が荒れてきているという危機感と、子供たちに「地域の山を大切にすることを学びたい」という願いがありました。

そこで、切原地区全戸に学校林整備作業への参加を呼びかけたところ、思いに共感したたくさんの人々が集まりました。

子供達も地区の人が学校林作業を手伝ってくれたことがとても印象的だったようです。

学校林を活用して

多、学校林は遊び場として、また森林資源を利用する場として活用されています。

林内の一角には、子供たちが植樹したヒラタケの原木が伏せられ、子供たちはキノコが出てくるのを楽しみにしています。

また、炭焼きにも挑戦し、できた炭は親子パーベキュー大会や水質浄化のためのいかだの材料に使われました。

子供たちは、森林を育て、その資源を有効に活用していくことの大切さを体験を通じて学んでいます。

未来へ引き継ぐ

児童の1人は「植えた木が大きくなるころには私は大人です。私の子供がこの山で遊んでくれたらうれしいです。」と感想文に書いています。

地域の大切な財産である、森林とそれを引き継ぐ子供たちは、地域の温かい支援の中で着実に育ちつていきます。